

別紙 2

# 札幌市映像活用事業助成金 新型コロナウイルス感染症 ロケ撮影におけるガイドライン

札幌フィルムコミッション  
令和 2 年（2020 年）9 月

# はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、感染拡大防止を最優先として外出自粛・営業自粛などの要請が行われ、市民活動・経済活動が抑えられてきましたが、札幌市も6月下旬には北海道が示すロードマップにおける段階的緩和の「ステップ1」から「ステップ2」に移行し、施設の使用制限、イベントの開催制限が緩和され、人の動きや社会経済活動が活発になってきています。

しかし、新型コロナウイルスとの闘いは、これで終わりではありません。闘いの長期化を見据え、国が示した「新しい生活様式」の実践をしながら、経済の活性化と感染拡大防止の両立をこれからは目指していくこととなります。当然のことながら、ロケの撮影も感染リスクを低減させながら、展開していくことが求められます。

新型コロナウイルスの感染が拡大したこの数か月間で、ジャパンフィルムコミッションをはじめとして、業種別の各団体、映像制作会社等から感染予防対策ガイドラインが策定されています。また、北海道では新型コロナウイルスに強い社会を作る「北海道スタイル」も打ち出されました。

これからロケ撮影の現場において新型コロナウイルスの感染から身を守り、安心して撮影を行うためにも、映像作品の企画・制作に携わる事業者（委託者。以下「ロケ責任者」という。）のみならず、制作に関わる事業者（受託者）も、こうした指針に沿って適切に感染防止対策をとっていく必要があります。

そこで、制作に関わる事業者の個々の業務実態、仕事現場の実態などを考慮し、各事業者の皆様が継続的に取り組んでいただけるように、また、受発注者双方で感染防止の取組を協議するきっかけとなるように、ジャパンフィルムコミッション策定の「ロケ撮影支援における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」を補完するものとして、札幌市経済観光局監修のもと本ガイドラインにまとめました。

記載されている項目は感染のリスクを低減させるための一つの目安となります。しかし一方では、感染症防止対策も感染状況や業態（映画、番組等）、事業規模によってレベルが異なりますし、その取組によっては映像制作の在り方にまで干渉してしまうことがあります。また、これらの取組を行えば100%感染しないということでもありません。そのようなことから、最終的には事業者が現場に応じて、感染のリスクを考慮し、創意工夫をして自主・自律的に感染防止への取組を行っていくこととなります。

最後に、スタッフのみならず、ロケ地、取材先の地元の方々の安全を確保するために、感染防止対策に対する意識を高めて、映像制作を実施していただくことを願い、札幌フィルムコミッションでは本ガイドラインを周知してまいります。

# 1 基本事項

## 1-1 事前対策

- 1 制作に関わる事業者は、事前に、ロケ責任者に撮影に参加するスタッフリスト（連絡先）を提出する。
- 2 毎朝夕の検温を実施し、咳・下痢等の症状も含め健康状態が分かるチェックリストをロケ責任者に提出する。
- 3 息苦しさ、強いだるさ、高熱等の強い症状のいずれかがある場合は、自宅・ホテルで待機する（一般に 37.5 度以上の場合を発熱とみなすが、症状には個人差があることから、平熱とあわせて判断する。）。
- 4 症状が改善しても、最低 72 時間の経過期間中は、撮影に参加させない。
- 5 ロケ責任者は、症状が出た場合を想定し、制作に関わる事業者と協議の上、地域の保健所又は相談窓口を確認し、体調不良者が出た場合の搬送体制等の対策を立てておく。  
  
札幌市：「新型コロナウイルス一般電話相談窓口」 TEL 011-632-4567
- 6 「北海道コロナ通知システム」や「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」を積極的に活用する。

## 1-2 撮影全般

- 1 マスク又はフェイスシールド着用を原則とする。マスク着用の際は、熱中症・呼吸困難等を回避する対応を心がける。また、フェイスシールドの消毒を徹底する。
- 2 人との間隔は一定の距離を確保し、相手と手が触れ合う距離での会話は避ける。
- 3 会話は必要最小限とし、大声で話さない。
- 4 手洗い・消毒を徹底する。撮影現場及び車両内には消毒液を常備する。

- 5 トイレでは、できる限り便座の消毒を実施する。また、蓋を閉めてから水を流し、水滴の飛散を防止する。
- 6 出したゴミは、原則各自持ち帰る。回収する必要がある場合は、マスク・手袋を着用して行う。
- 7 タクシーを利用した場合は、利用日と利用経路を把握しておく。

## 2 個別事項

### 2-1 車両に関して

- 1 乗車時は、座席を指定し、交互に窓側に配置するなど十分に間隔を空ける。運輸事業者は、定員と座席配置を示した表を作成し、車両内に貼る。
- 2 窓の開放、外気導入モードでのエアコン運転等により、換気を徹底する。
- 3 冷蔵庫等、共用の備品は使用しない。
- 4 備品等の搬出入時は、手の消毒を徹底する。
- 5 ドアの開閉は乗務員による自動とし、ドアノブ等の消毒を徹底する。
- 6 その他感染防止対策については、運輸事業者の指示に従う。

### 2-2 撮影・照明・特殊機材に関して

- 1 担当スタッフ以外は機材に触れないようにする。
- 2 機材に触れる場合は、手の消毒を徹底する。作業終了後は機材の消毒も徹底する。
- 3 トランシーバーは、使用する個人が管理し、使用後は消毒を行う。

### 2-3 衣装・メイク・小道具に関して

- 1 衣装・メイク道具・小道具を扱うスタッフは、業務に支障がない限り手袋着用を原則とし、出演者ごとに別々の手袋を使用する。
- 2 衣装・メイク道具・小道具の共用・再利用はできる限り避け、消毒を徹底する。
- 3 メイク室・着替え場所は、2m 以上の間隔を空ける、又は、間仕切りを設ける。使用後は消毒を徹底する。

## 2-4 撮影に関して

- 1 セット構築や機材設営時、映像チェック等では、一度に多数のスタッフ・出演者が混在しないようにする。
- 2 食事のシーンの撮影で使用する料理等については、感染防止対策がとられた中で調理されたものを使用する。
- 3 一般の人とインタビュー等で接触する場合であっても、一定の距離を確保するなど感染防止対策を講じる。
- 4 多くの見物人が滞留する場合は、「密」にならないよう注意喚起する。

## 2-5 食事に関して

- 1 飲食を扱う場合は、マスク・フェイスシールド・手袋を着用し、手渡しは避ける。
- 2 食事は一人分ずつ分けて配布する。飲料は個人別に配布し、記名させる。
- 3 感染防止対策がとられていない炊き出しは行わない。
- 4 食事場所では、対面での着席を避ける。
- 5 撮影期間中は多人数での食事は行わない。
- 6 「北海道スタイル」の実践に取り組んでいる飲食店を利用する。

## 2-6 宿泊に関して

- 1 1名1部屋を原則とする。
- 2 感染防止対策がとられていないビュッフェ形式の食事は避ける。
- 3 ロビー、エレベーター等では「密」を避ける。
- 4 その他感染防止対策については、宿泊施設の指示に従う。
- 5 「北海道スタイル」の実践に取り組んでいる宿泊施設を利用する。